



令和4年1月24日(月)

研究主題 「学ぶこと・考えることを楽しむ」

～自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫～

本年度3回目の校内研究を行った。今回の教科は生活科で、ICTを活用した学習活動である。1年1組 神嶋凌介教諭が「みんなの にこにこ 大きせん」、2年1組 河野 里佳教諭が「あつまれ、みんなの いいところ」という単元で授業を行った。



神嶋教諭の授業では、冬休みに家で行った仕事（手伝い）とそのコツをさくせんほうこくしょとして前時までにMetaMojiで共有・分類しておき、他者のコツを参考にして家の人を“もっと”にこにこにする作戦の計画を練った。例えば、洗濯したものを片付けるという仕事の場合、友達のさくせんほうこくしょを参考に「〇〇さんの、はしをそろえてたたむやりかた」とワークシートにコツを記入する。児童は、友達のさく

せんほうこくしょをMetaMojiで確認しながらコツを記入し、もっと詳しく知りたい場合は直接本人に聞きに行った。最後に、新しいさくせんの名前を考えながらさくせん成功への意欲を見せていた。既にやりたい仕事が決まっている児童が多く、すぐに参考にしたい友達のさくせんほうこくしょを見て、主体的に書き進めていた。

河野教諭の授業では、友達の良いところをMetaMojiの共有ページに記入し、最後に自分のページに書かれた友達からの言葉を見て、自分では気づかなかった自分の良いところや成長への気づきにつなげる活動を行った。予め友達のページに記入したいことを名簿の用紙に書いておき、それを見ながらタイピングまたはタッチペンによる手書きで記入した。自分のページを開く際は、ドキドキしながら開き、真剣な表情で読む姿が見られ、書かれていることの共通点をまとめながら自己分析をしていた。最後

に、友達が書いてくれたことを全体で発表して共有し、感じたことや、自分の良さはいつから身についていたかを考えながら、自分の成長への気づきにつなげていった。

協議会では、東北大学院 教授の堀田 龍也先生、信州大学 助教授の佐藤 和紀先生、常葉大学 講師の三井 一希先生より、ご講評をいただいた。授業や業務の効率化を目的とし、ICTの活用に教師も児童も十分に慣れることで、紙とデジタルの最適な方法を選択することができる。ICT活用を通して、情報の整理・分析、取捨選択、新しい視点を獲得する経験を積



ませることで、全ての学習の基盤である情報活用能力の育成を行っていきたい。